

2023 年度
「子ども第三の居場所」利用児童
を対象とした
宿泊型海洋体験の実施
事業報告書

2023 年 11 月
B&G 財団
地方創生部 子ども支援課

【背景・目的】

家庭状況等により、自然の中での活動など、様々な経験・体験が不足している「子ども第三の居場所」の利用児童を対象に、日頃できない自然体験活動や文化体験等を提供することで、夏休みの楽しい思い出を作るとともに、心身共に健全な子どもを育てる。

【事業内容】

1. 「子ども第三の居場所」利用児童を対象とした宿泊型海洋体験の実施

- (1) 対 象：「子ども第三の居場所」に通う児童生徒
- (2) 人 数：148名（子ども105名、引率者43名）

	参加拠点	子ども	引率者	計
A行程	茨城県笠間市	4	1	5
	長野県大町市	8	3	11
	新潟県胎内市	3	2	5
	NF 栃木県大田原市	2	3	5
	NF 埼玉県さいたま市	7	2	9
	NF 埼玉県三芳町	7	2	9
	NF 青森県青森市	7	3	10
	NF 新潟県新潟市	6	3	9
	計	44	19	63
B行程	兵庫県明石市	10	3	13
	大分県杵築市	11	4	15
	NF 大阪府大阪市	9	3	12
	NF 京都府京都市	7	3	10
	NF 鳥取県鳥取市	1	1	2
	NF 宮崎県宮崎市	8	3	11
	NF 佐賀県唐津市	8	3	11
	NF 沖縄県本部町	7	4	11
	計	61	24	85
A+B	合計	105	43	148

(3) 時 期：A行程 2023年7月26日～7月29日

B行程 2023年7月30日～8月4日

(4) 日 数：A行程 3泊4日

B行程 5泊6日

(5) 場 所：沖縄県

(6) 内 容：マリンスポーツ体験、沖縄文化体験、美ら海水族館見学等

(7) その他：A行程はB&G財団の「子ども健全育成大使」の酒井法子氏が同行し、乗艇補助のサポート等を行った。

【内容詳細】

(1) A 行程

	1 日目 (7/26)	2 日目 (7/27)	3 日目 (7/28)	4 日目 (7/29)
午前	移動	・琉球ガラス作り体験 ・名護パイナップルパーク散策	マリンスポーツ体験 (カヌー、箱メガネ)	那覇国際通り散策
午後	移動	美ら海水族館見学	マリンスポーツ体験 (SUP、バナナボート)	移動
夕べの集い	交流会	保護者への手紙	・思い出バスケット ・旅の振り返りムービー	
宿泊	マリンプiazza	マリンプiazza	マリンプiazza	

(2) B 行程

台風6号の影響により、航空機が欠航し、2泊の延泊となった。

	1 日目 (7/30)	2 日目 (7/31)	3 日目 (8/1)	4 日目 (8/2)	5 日目 (8/3)	6 日目 (8/4)
午前	移動	美ら海水族館 見学	プールレク	<u>ジェルキャン ドル作り</u>	旅の振り返り ムービー	那覇国際通り 散策
午後	移動	・ <u>エイサー体 験</u> ・ <u>島ぞうり作 り</u>	オーシャンホ ールレク	・ <u>サンゴ風鈴 作り</u> ・中国語講座	・名護パイナ ップルパーク ・那覇へ移動	移動
夕べの集い	交流会	保護者への手 紙	レクの景品プ レゼント	思い出バスケ ット	なし	
宿泊	マリンプiazza	マリンプiazza	マリンプiazza	<u>マリンプiazza</u>	<u>ノホテル沖縄 那覇</u>	

※赤字はプログラム移動・変更点。下線部は追加費用発生部分。

1. プログラム内容

■ 交流会・参加拠点紹介

アイスブレイクと拠点間交流をねらい、後出しじゃんけんや自己紹介などのレクリエーションを実施した。また、他拠点との交流を図り引率者の自己紹介の時間を設けた。



後出しじゃんけん



拠点スタッフ紹介

■ 朝の集い

朝食前に、当日のプログラム、服装、持ち物、集合時間を確認する朝の集いを実施した。また、朝の集いには引率者、B&G 財団職員、日本財団職員にて、当日の動きや子どもたちの様子等の情報共有を行うスタッフミーティングを実施した。



朝の集い

■ マリンスポーツ体験

もとぶ元気村にて、カヌー、SUP、バナナボート、箱メガネのマリンスポーツ体験（裏プログラムとして水鉄砲）を実施した。

※B 行程は悪天候によりプールプログラムに変更。



マリンスポーツ体験（B&G 財団職員指導）



マリンスポーツ体験（カヌー）



マリンスポーツ体験 (SUP)



マリンスポーツ体験 (バナナボート)



マリンスポーツ体験 (箱メガネ)



マリンスポーツ体験 (水鉄砲)



マリンスポーツ体験 (プール)



酒井法子氏の乗艇補助

■ タベの集い

集い終了後は、翌日のプログラム、服装、持ち物、集合時間を確認した。子どもたちはしおりに予定等を記載し、それをもとに各部屋で翌日の準備を行った。



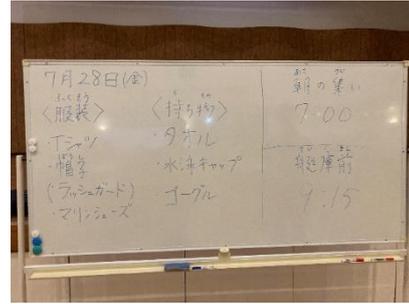
保護者への手紙



思い出バスケット



箱メガネ対決の賞品



翌日の持ち物等確認

■ 美ら海水族館 見学

拠点毎に水族館内を自由に見学した。全員で「オキちゃん劇場」イルカショーを鑑賞。



水族館見学



イルカショー鑑賞

■ 琉球ガラス作り体験

森のガラス館にて、琉球ガラス作り体験を実施した。ガラスを吹いて膨らます工程と、熱したガラスを転がして飲み口を形成する工程を体験した。完成品は後日拠点に郵送され、拠点や家で利用できる。



琉球ガラス作り体験（吹く）



琉球ガラス作り体験（形成する）



琉球ガラス作り体験



森のガラス館お土産売り場

■ ナゴパイナップルパーク

琉球ガラス作りの裏プログラムとして、ナゴパイナップルパーク見学を実施した。低学年も楽しめるパイナップル号カートや恐竜エリアがあり楽しめた様子。



■ 那覇国際通り散策

拠点毎に国際通りの自由散策を行った。お土産を購入したり沖縄名物のアイスクリームを堪能したりと、沖縄ならではの夏の思い出づくりとなった。保護者や友人にお土産を購入する姿が見られた。



■ 台風の代替プログラム

① エイサー体験

オリジナルパーラック（エイサーで使用される手持ちの片張り太鼓）を作り、それを使って現地の人に教えてもらいながら全員で踊る、エイサー体験を実施した。一体感も生まれ、沖縄でしか体験できない貴重なものとなった。

② 島ぞうり作り

自分が考えたデザインをぞうりに転記し、ピンセットとナイフを使ってゴム部分をカット。世界に一つだけのオリジナル島ぞうりを製作した。

③ サンゴ風鈴作り

サンゴを麻の紐でくくりグルーガンで接着。特に低学年はスタッフのサポートのもと製作した。

④ ジェルキャンドル作り

砂や貝殻を瓶に入れ、上からジェルを流し込んで完成。比較的簡単な作業で、低学年もムリなく製作できた。「拠点でも作ってみよう」と作り方を聞いていたスタッフもいた。

⑤ 中国語講座

中国出身の B&G 財団職員による中国語講座を実施した。同じ漢字でも日本語と中国語では全く意味が異なるものもあり、子どもたちは興味津々だった。



パーラック作り



パーラック完成



エイサー体験



島ぞうり作り



サンゴ風鈴作り



中国語講座

2. アンケート調査等

(1) 参加者の学年

参加者全 105 名の学年の割合については以下のとおりとなった。(図1)

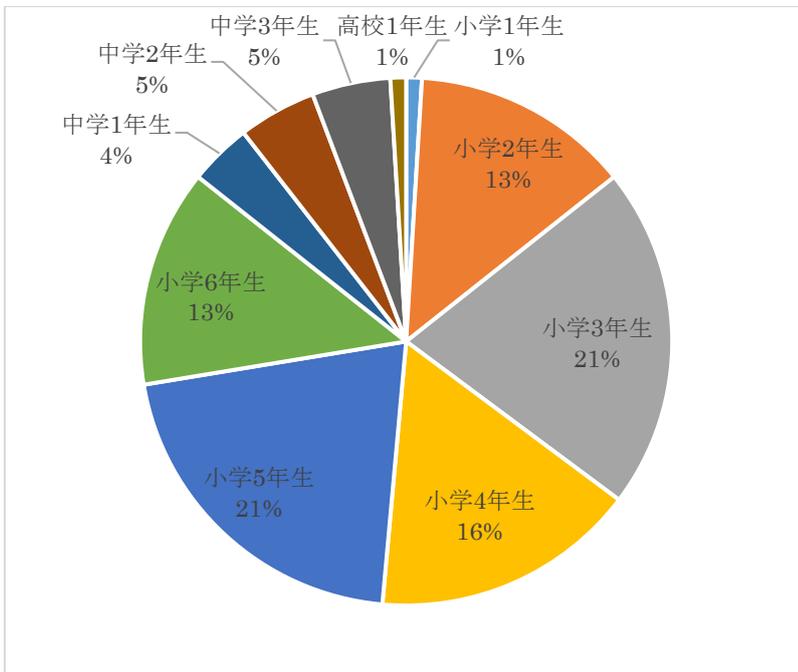
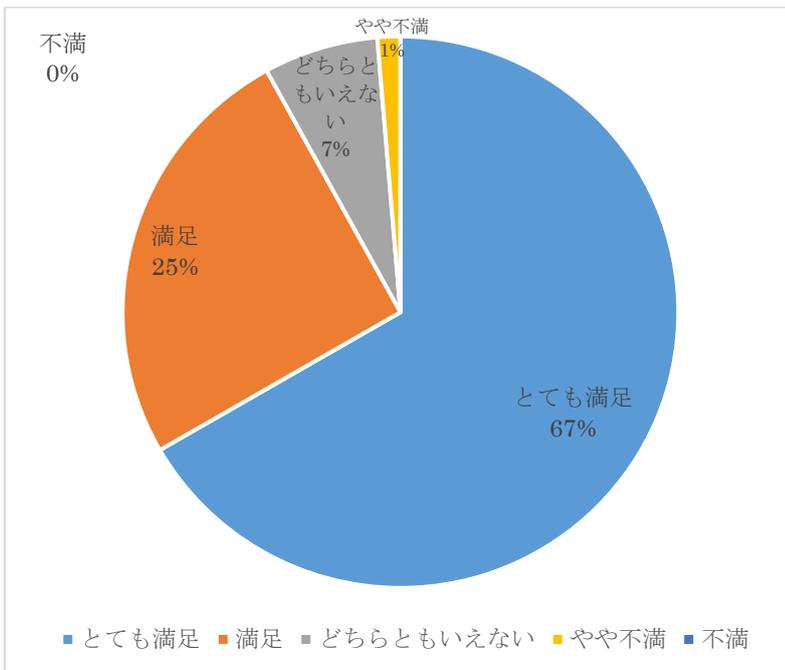


図1. 参加者の学年 割合

(2) アンケート結果 (参加者)

●満足度 (図2)



参加者全体満足度 = 92%

図2. ツアー全体

●プログラム別満足度

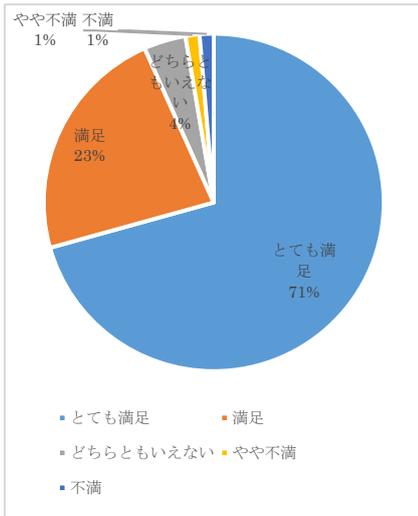


図3. 美ら海水族館

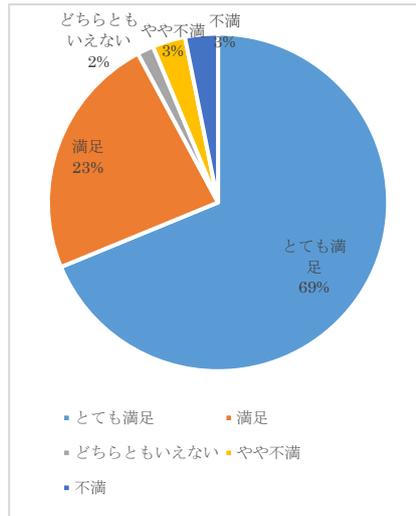


図4. マリンスポーツ体験

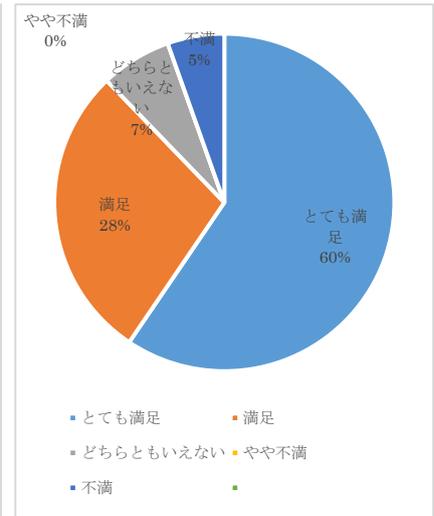


図5. パイナップルパーク見学

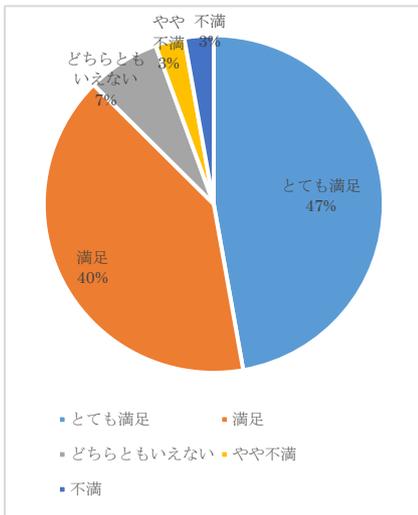


図6. 国際通り散策

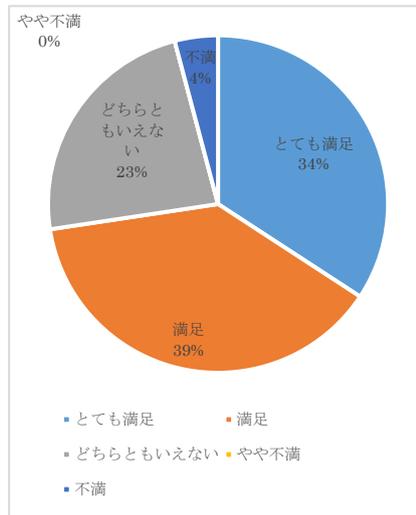


図7. 交流会 (1日目)

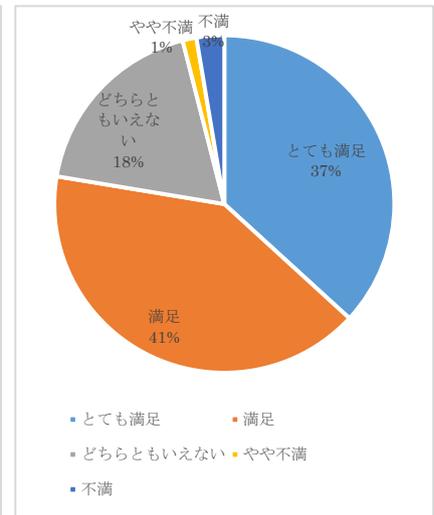


図8. タベの集い (保護者への手紙)

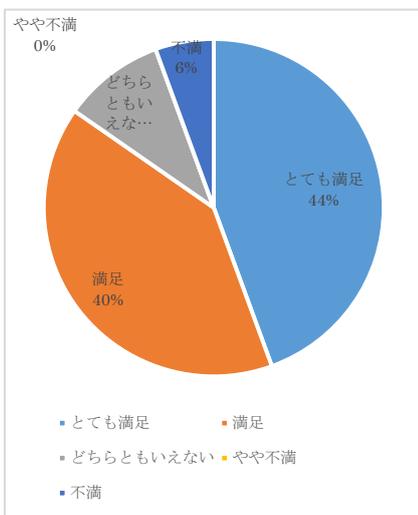


図9. タベの集い (思い出バスケット)

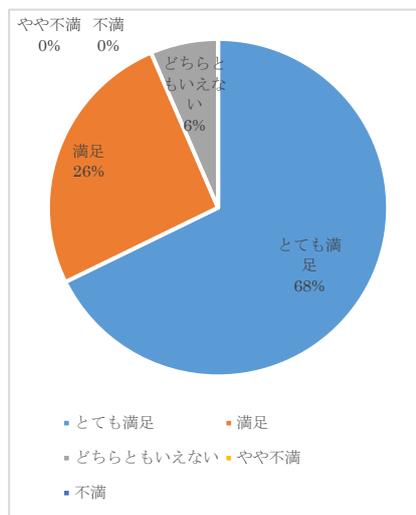


図10. 琉球ガラス作り体験

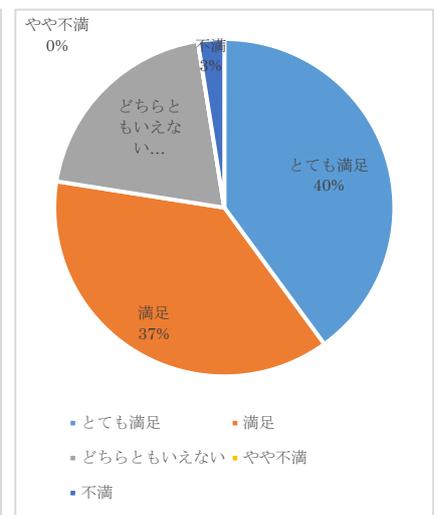


図11. エイサー体験

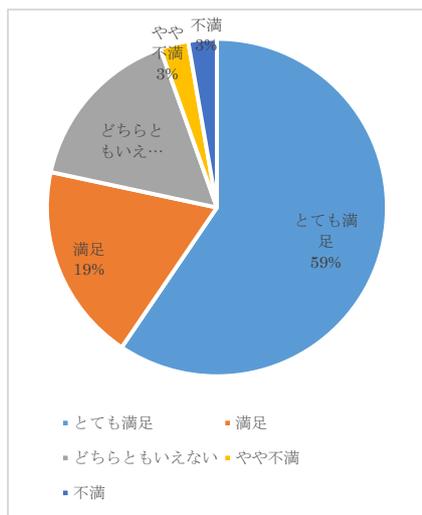


図12. 文化体験プログラム

●変化・成果など

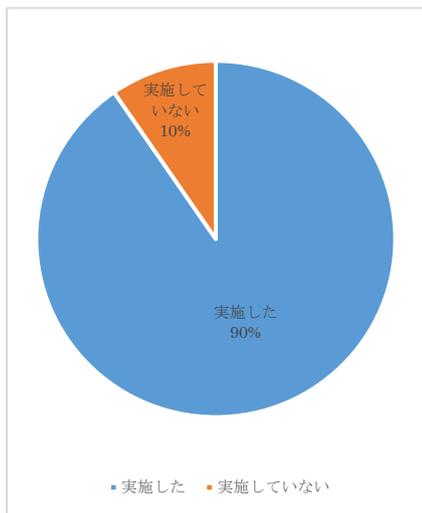


図13. 事前学習の有無

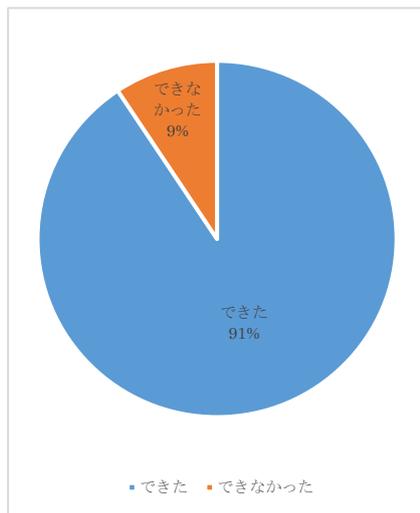


図14. 他拠点の人との会話交流

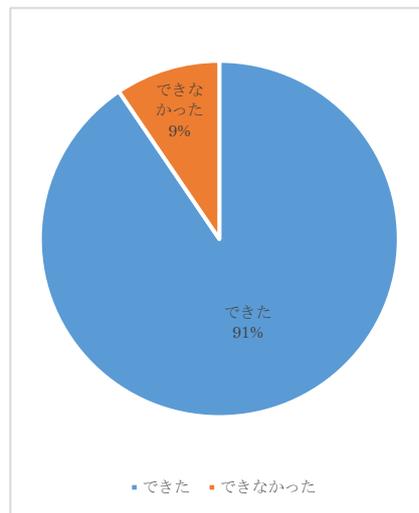


図15. 自分や周囲の健康管理

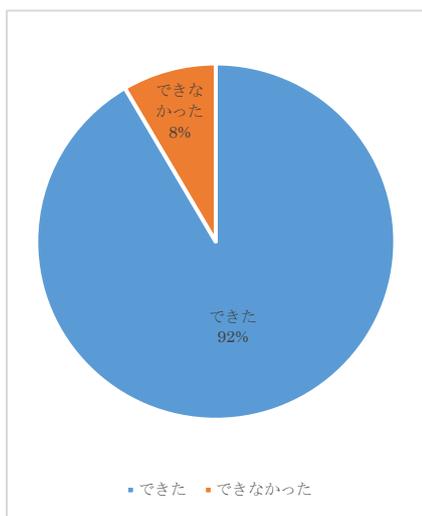


図16. ルール・マナーの遵守

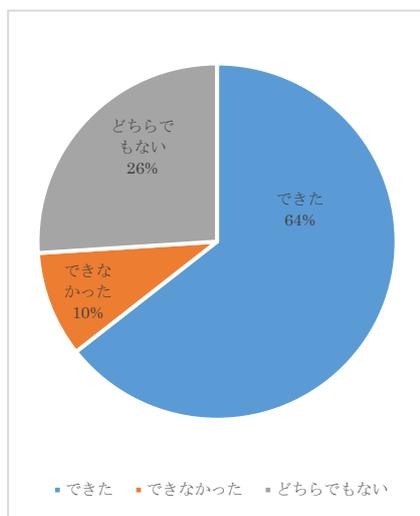


図17. コミュニケーション力の習得

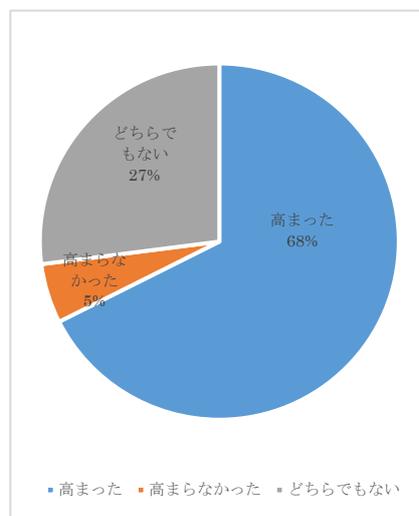


図18. 意欲

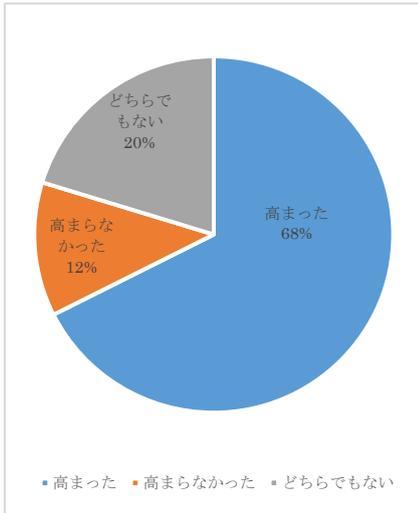


図 1 9. 諦めない心や前向きな気持ち

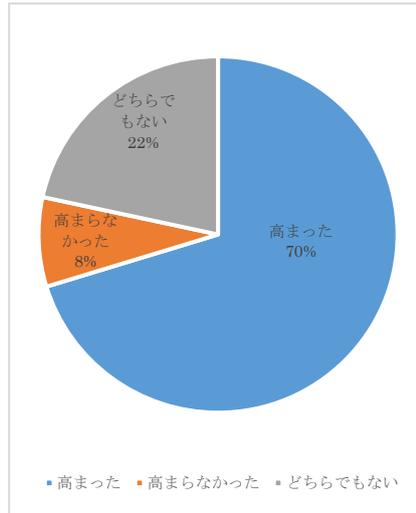


図 2 0. 自分を大切にすることや自信

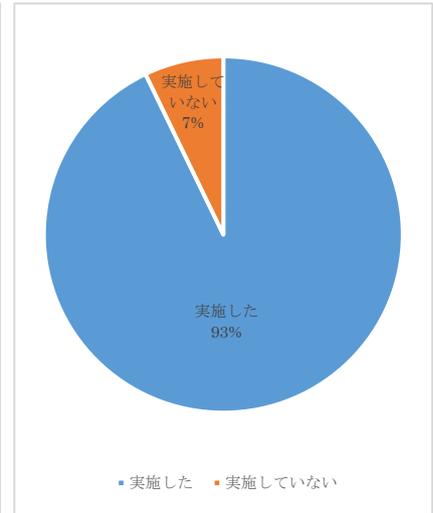


図 2 1. 事後学習の有無

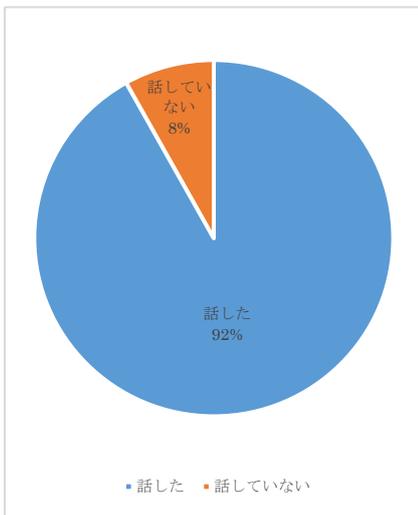


図 2 2. 沖縄の出来事や思い出をおうちの人に話したか

● ツアーに参加して成長したこととその〈理由〉

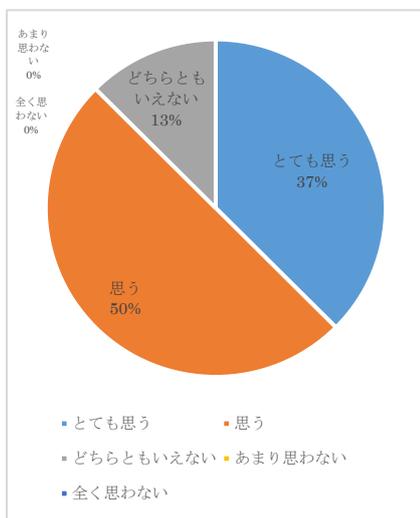
- ・ルールを守れるようになったこと〈みんなと同じように動けたから〉
- ・整理整頓ができるようになったこと〈洋服や布団の片付けをするようになったから〉
- ・お金の使い方〈お小遣いをどう使うか考えながら使ったから〉
- ・前より自信が持てるようになったこと〈家族以外の人と泊まったりごはんを食べたりすることができたから〉
- ・自分から喋りかけて話すこと〈別拠点の人としゃべって仲良くなれたから。自分からしゃべりかけることができたから〉
- ・物事に対して意欲的になったこと〈調べて書くことへの楽しさを知ったから〉
- ・知識が増えたこと〈沖縄で様々なことを学んだから〉
- ・好き嫌いをせずに食事ができたこと〈初めて食べるものも残さず食べられたから〉
- ・仲間がいることの安心感を味わったこと〈子供1人の参加だったので、仲良くなった同部屋の京都の子やじゃんけんで気が合った明石の子の存在がとても大きかったから〉

(3) アンケート結果 (引率者)

① ツアーに参加したことで子どもたちにみられた成長や変化。

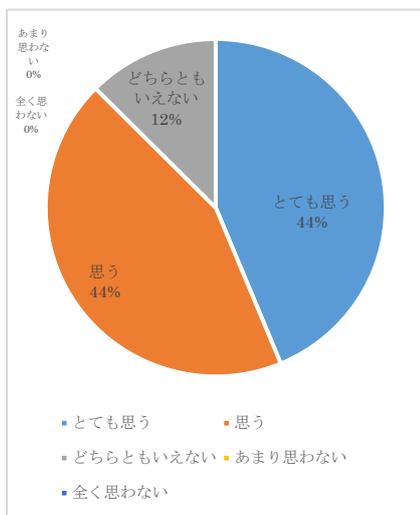
- ・持ち物の確認や、その日やること等、しおりを見ながら自分で気づくことができるようになった。拠点では野菜を食べない子がツアー中はバイキングだったにも関わらず、自ら野菜をとって食べていた。
- ・1人で荷物をまとめたり、片づけたりすることができなかつた子が、帰るころには1人で全てできるようになっていたのには驚いた。
- ・普段、内気でスマホばかりみていた子が、ツアー後、社会的にほかの子と話したり、カードゲーム等で遊んだりしているのを見て、成長したなど感じた。参加した子は話を聞く姿勢がよくなった。
- ・初日は何度もお財布の入れた場所を忘れていつも探していた子が、「定位置にしまわないとだめだ」と言って自分で管理できるようになっていました。
- ・日に日に仲間意識も芽生え、部屋での役割分担、下の子のお世話をする、ルールを決めるなど個々から大きな輪になったように感じました。シャワーの順番、片づけなどスムーズにできるようになり、最終日はスタッフが声掛けする前に自分たちでできるようになりました。

② ツアーでの経験を通して子どもたちは、コミュニケーション力が身に付いたと思うか。



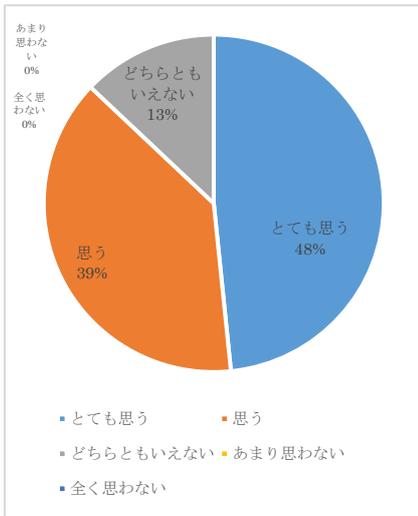
- ・イレギュラーな状況だからこそ、自分でどうしたいのか発信する力が身についた。
- ・他拠点の子たちとも積極的に関わっていく姿が見られた。
- ・日数が延び、一緒にいる時間が長くなった分、ぶつかることもありました。その後集団で過ごす中でルールができ、相手を気遣うことができるようになりました。

③ ツアーでの経験を通して子どもたちは、意欲が高まったと思うか。



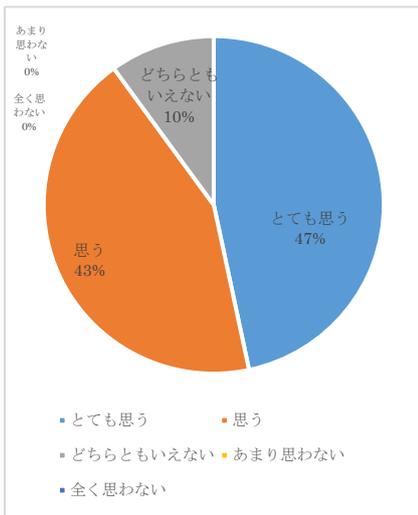
- ・今回のツアーで初めてのことに挑戦する機会が多かった(友達との3泊や飛行機移動も含め)ので将来的に積極性に繋がると思います。
- ・マリンスポーツでは最初嫌がっていたが、やってみれば楽しいと気づいた様子。
- ・向上心が高まった子は多いと思います。沖縄でいろいろな経験ができましたが、できなかったこと(海など)もあるので帰ってきて、海に行きたいからまた沖縄に行きたい、と言っていました。

④ ツアーでの経験を通して子どもたちは、へこたれない力が高まったと思うか。



- ・親と離れた4日間で「自分でやるしかない」から「自分でできるんだ」という自信につながった。
- ・親元を離れ、すぐに帰れない状況だったからこそ、我慢したり、前向きに考えようとしたりすることができていた。
- ・限られた範囲、エアコンが使えない環境などで過ごすことを強いられましたが、不満を漏らすことなくいてくれました。
- ・台風やコロナ感染など、思うようにツアーを実行できないこともあったが、そんな中でも大きく落ち込むことなく、その時の状況を楽しもうとしてくれました。

⑤ ツアーでの経験を通して子どもたちは、自己肯定感が高まったと思うか。



- ・最後までツアーから離脱せずやり遂げたことを踏まえ、自己肯定感の形成のための大きな経験を積むことができたと思います。
- ・沖縄の海や自然に触れて、今までの小さな社会から飛び出て自分の価値や可能性を深めることができた。
- ・大勢の仲間と一緒に体験したドキドキ感は帰ってからの表情や言動を見ても自信につながっていると実感している。
- ・親の経済状況を理解してわがママをいうことをあきらめていた子供もいたと思いますが、同級生の友達でも経験したことがない、沖縄に行くことができ、プレストレスで特別な体験になったと思います。そのことが自己肯定感の向上や心の充足につながったと思います。

(4) アンケート結果 (保護者)

① ツアーに参加したことで子どもに見られた成長や変化。

●生活面

- ・自分から進んでお手伝いなどやるが増えたと思います。
- ・新しいことへの挑戦が増えた。(一人でバスに往復乗る)
- ・ゲームなど(携帯)をする時間がびっくりするくらい減りました。
- ・帰宅以降、いつも注意されていることを自分から進んで行っていたのを見て、成長したなと思いました。
- ・いままでは、時間を気にしていなかったが、最近時間を意識して行動するようになった。7時になったから歯磨きしなきゃ、●時になったから勉強しなきゃ、等の発言あり

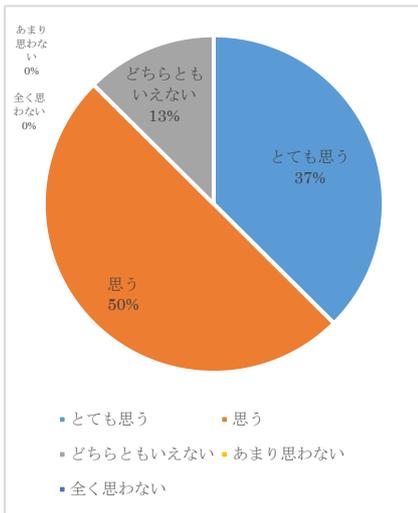
●学習面

- ・ガラス体験を通し、身近にあるものがどのように作られているのか興味をもった。
- ・TVで沖縄の情報が流れると、興味深く見ている。飛行機に乗ったのが初めてだったので、飛行機に興味を持ち、YouTubeで羽田空港のライブカメラを見て、あれはどことこの飛行機だ！と言っている。
- ・ちょうど学校での宿題で地理新聞を作る機会があり、意欲的に沖縄について書いていました。
- ・読み書きの障害があるのですが、本人の口から「漢字の練習楽しい」との言葉が出ました。

●その他

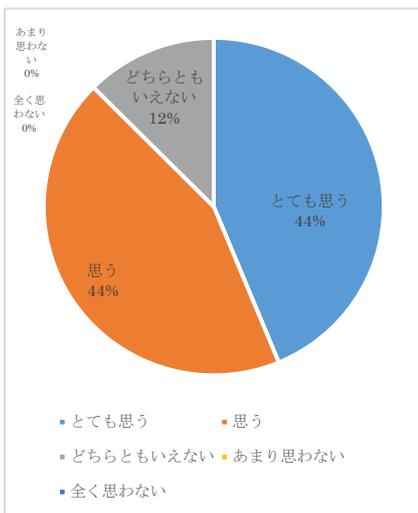
- ・ある宿泊体験の広告を見たときに、宿泊日数を見て「2泊程度かー」と言っていた。3泊4日の体験を経て、とても自信がついたようでした。
- ・水が苦手なのに海やプールに興味を持った。
- ・相手に気持ちを伝える力は以前に比べて向上したと感じます。自分がどうしてそういう気持ちになったのか、今どういう気持ちなのか、細かく伝えてくれるようになったと感じています。

②ツアーでの経験を通して子どもたちは、コミュニケーション力が身に付いたと思うか。



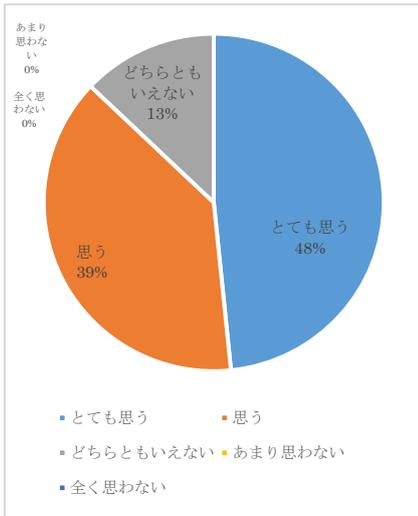
- ・相手に気持ちを伝える力は以前に比べて向上したと感じます。自分がどうしてそういう気持ちになったのか、今どういう気持ちなのか、細かく伝えてくれるようになったと感じています。
- ・「嫌だ」「やりたい」「ありがとう」など自分の意見を伝えられる力がアップしたように思います。
- ・母や兄弟から話しかけないと発言がなく、自分の世界にこもっている感じであったが、自分から話しかけるようになってきた。欲しいものを（我慢して）言う事ができなかったが、最近は欲しいものを言えるようになったり、自分のやりたいことを言ったりできるようになった。

③ツアーでの経験を通して子どもたちは、意欲が高まったと思うか。



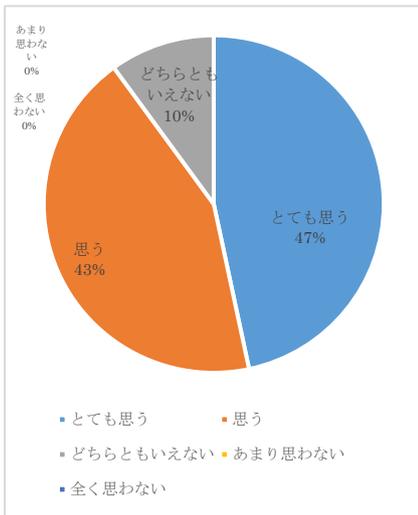
- ・今まで苦手で避けていた食べ物にチャレンジする姿が見られました。
- ・海水が苦手だったが、海に入り、シュノーケルをつけて泳いだり、シーカーヌーに挑戦したりできるようになった。
- ・沖縄ツアー後、拠点にバスで通うことに挑戦した。行きは一緒について練習したが、帰りも一人で乗ってみたいということで、練習せず時間とバス停を一緒に確認し、一人で帰りも無事に帰宅できた。多少の不安はあったようだが、それでも挑戦してみようという意欲が高まったと思う。
- ・前は文章を書くことに対して難しさを感じていたようですが、事前学習ノートなど書いた時に楽しく取り組めたようで、書くことへの意欲が出たように感じます。

④ ツアーでの経験を通して子どもたちは、へこたれない力が高まったと思うか。



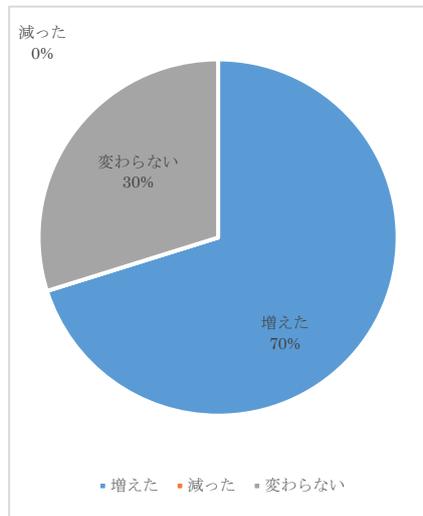
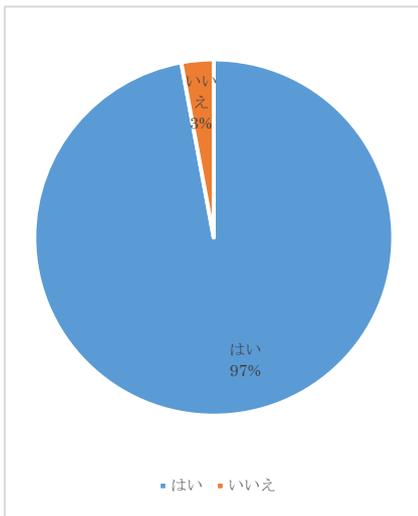
- ・親元から離れて、初対面が多い環境においても、集団行動をしながら自然とそういう力が身についたのではないかと思います。
- ・「ま、そういうこともあるよ」とプラス思考で対応する姿が見られる。バレエも粘り強く自分を鼓舞して取り組んでいる。
- ・すぐに放り出さずに粘る力がより強くなったと感じました。

⑥ ツアーでの経験を通して子どもたちは、自己肯定感が高まったと思うか。



- ・すぐに放り出さずに粘る力がより強くなったと感じました。
- ・いままでは、友達も少なく学校行くのが嫌と言っていたが、夏休み明けに学校に行くことが楽しみだと発言をしていた。
- ・自分より年下の学年の子と一緒に活動したことで、下の子のサポートをたくさんしたよ、と自信をつけて帰ってきました。
- ・今回の経験が大きな自信につながったと感じる。留守番や買い物等も安心して任せられる。

⑦ ツアー後、沖縄での出来事や思い出を子どもと話したか。また、ツアー前と比較して、子どもとコミュニケーションを図る機会は増えたか。



3. 製作物について

(1) ツアーTシャツ・キャップ・スタッフポロシャツの作成

安全配慮の観点からツアー参加者を判別しやすいよう安全面プログラム実施時に着用する「キャップ」、マリンスポーツ体験プログラム実施時や一般施設入館時に着用する「Tシャツ」、B&G 財団職員が着用する「ポロシャツ」を作成し、配布した。

① キャップ

- ・カラー：オレンジ（子ども、引率者）、ネイビー（B&G 財団職員）



拠点用



BGスタッフ用

キャップ



デザインロゴ

② Tシャツ

- ・カラー ※拠点別

職員



ネイビー
(A) 職員
(B) 職員

NF拠点



ピンク
(A) NF大田原
(B) NF大阪



バーガンディ
(A) NFさいたま
(B) NF京都



レッド
(A) NF三芳
(B) NF鳥取



オレンジ
(A) NF青森
(B) NF宮崎



デイズ
(A) NF新潟
(B) NF唐津



ホットピンク
(A) なし
(B) NF本部町

BG拠点



ターコイズ
(A) 大町
(B) 明石



ブライトグリーン
(A) 嵐山
(B) 杵築



ロイヤルブルー
(A) 胎内
(B) なし



ライトパープル
(A) 笠間
(B) なし

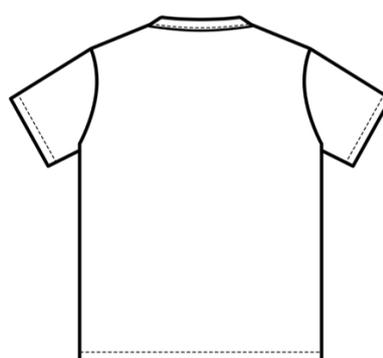
- ・デザイン



前面



背面



※すべて白プリント

③ポロシャツ (B&G 財団職員用)

- ・カラー：ネイビー
- ・デザイン



※袖マーク白刺繍
胸B&Gマーク白刺繍



※ネイビー地に白プリント

以上